



# M.M.Honcho Newsletter

【12月号】令和5年11月30日発行



## 豊かな活動の一年に

校長 小正 和彦

2023年も最後のひと月となりました。今年も子どもたちはいろいろなことに取り組んできましたが、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、これまでの3年間に比べて大きく広がりや深まりが進んだ一年となったと思います。

幼保小の連携につきましても、横浜市子ども青少年局の所管する「幼保小連携推進地区事業」の指定も3年目を迎え、連携保育園4園（キッズパートナーみなとみらい、みなとみらいくばがさ保育園、にしじろ保育園みなとみらい、ポピンズナーサリースクールみなとみらい）との交流が深まりました。国も本市も重点取組として進めてきている「架け橋プログラム」は、幼稚園・保育園と小学校の相互理解を深め、連続性をもった円滑な接続を目指しています。そのために園児と児童の交流場面を通して、お互いの指導・支援についての相互理解を深めてきています。さらに本年度は本校の重点取組であるESD/SDGsの視点についても、「多様性」や「ものを大切に」「環境配慮」などをキーワードに職員同士での意見交換を進めました。各園においても、ESD/SDGsとして表現している、していないの違いはあっても、様々な保育活動の中で同様の視点をもっていることが分かりました。当然ながらESD/SDGsの取組は小学校で完結するものではなく、幼保小中高大と連続性の中で、持続可能な社会の創り手、担い手としての一人ひとりの価値観、意識、態度として積み重ねていくことでゴールへと向かいます。今後、この視点での連携の必要性はますます高まると思います。

また、11月18日（土）に開催しました『「みな」と「みらい」を語る会』も、4年ぶりに制限なしの開催となり、多くの保護者、連携先関係者の皆様にご参加いただきました。子どもたちも目的をよく理解して、単に発表の場としてではなく、様々な意見交換を通してこれからの活動に生かす機会にしていました。自分たちで決めたテーマ、目標、活動であるからこそ、自分事として生き生きと目を輝かせてプレゼンする姿がたくさん見られました。また、そのプレゼンを聞く立場から、たくさんの感想や意見を伝えている様子も見られ、とてもよかったと思います。プレゼンする立場、聞く立場、その両方を意識して、この会を有意義な時間にしようとする子どもたちの前向きな姿が素晴らしかったです。ご来校いただき、お声かけ、価値付けにご協力いただきました保護者、関係者の皆様、本当にありがとうございました。各クラスの活動が、本年度後半、さらに来年度以降の子どもたちの活動へと繋がっていくことが楽しみです。

11月14日（火）に5年生が取り組みました「環境ワークショップ」、11月15日（水）に6年生が参加しました「アジア・スマートシティ会議」、ならびに時事通信社「第38回教育奨励賞受賞」につきましては、学校ホームページに掲載しておりますので、是非ご覧ください。

今年も多くのご理解、ご協力をありがとうございました。来年も一人ひとりの子どもにとって一層の豊かな教育活動を目指してまいります。引き続きよろしくお願いいたします。

### 《専任より》

### カラフルウィーク & いじめ防止啓発月間

12月10日の世界人権デーの前後に毎年人権週間が行われます。今年度、本校では『カラフルウィーク』として、一人ひとりの個性や違いを認め合えるような、いくつかの取組を行う予定です。ありのままの自分を受け止め、他者と関わりながら、互いに安心して生活できるには、どんな気持ち・考えが必要か、子どもと一緒に考えていきます。ぜひ、ご家庭でも話題にしてみてください。

また、横浜市内の全学校において、12月は「いじめ防止啓発月間」として様々な取組が行われています。本校でも、MMHアンケート（いじめ解決のための生活アンケート）を実施し、一人ひとりと教育相談をすることで、子どもの思いへの気付きと、実態把握に努めます。そして、いじめの早期発見・早期解決、いじめ防止に取り組んでいきます。

「誰もが安心して、豊かに生活できるみなとみらい本町小学校」を目指して、いじめのみならず不安や悩みがありましたら、担任、児童支援専任、養護教諭などに気軽にご相談ください。児童支援専任 赤津 淳子

